



五稜郭と箱館戦争の遺構

～幕末を今に伝える戦場の記憶～



箱館戦争は1868（明治元）年秋の旧幕府脱走軍の侵攻に始まり、翌年春の新政府軍の反撃により、五稜郭開城で終わった。戦いは道南一帯に及び遺跡や遺構が随所に見られる。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が上陸した鷲ノ木、蝦夷島臨時政権の根城となった五稜郭や急ぎ造成された四稜郭、猛攻を受けた福山城、開陽丸が沈没した鷗島沖、新政府軍が上陸した乙部海岸、激闘の二股口、土方歳三が戦死した一本木関門など、戦いのすさまじさを偲ばせる。